

## 令和5年度 西都市立三財小中学校 学校評価書

学校経営ビジョン		三財スタイル（子どものために・みんなで・自分の成長のために）を基本に、「個」を尊重し「自律」を基に「自立」を促す教育活動を創造・実践し、子どもの姿を通して、地域から信頼される学校を目指す。							
教育目標	本年度の重点目標	評価項目		自己評価	考察及び改善策		外部評価	学校運営協議会委員の意見	総合評価
黒土大地のもと、三つの財（たから）をもち、地域に貢献する児童生徒の育成	(1) 学びの財	見える学力の向上	1 板書の工夫、めあて、まとめの明確化、発問、指示の工夫など分かりやすい授業に取り組んでいる。	4.0	○ 教師相互に授業を参観し協議しながら授業改善に努め、分かりやすい授業の構築を図ることができている。 ○ 児童生徒は、授業の中でタブレット(1人1台端末)を活用し、AIドリルやロイノート等を使って積極的に学習に取り組んでいる。教師も、より効果的なICT活用をテーマに研究実践し、個別最適な学びの実現に努めている。 ○ 子供たちが将来への希望や夢をもつのは、大切なことである。今後も保護者と連携しながら、キャリア教育や進路学習の充実に務めていく。 ● 児童生徒ともに読書量の不足が課題である。小学部では、9月から月に一度の「うちどく(家読)」を始めている。中学部でも、学級文庫を充実させるなどの工夫が必要である。今後も家庭の協力を得ながら、少しづつ読書の習慣を身に付けさせてていきたい。	3.9	○ 先生方の肯定的でプラスの声かけが良いと感じた。 ○ 先生方は端末を駆使しながら分かりやすい授業に努めていた。 ○ ICT機器を活用し先生方が個別に素早く対応してくれるでの良いとの評価を、保護者から聞いている。 ○ 家読については、各家庭に浸透しているようだ。 ○ 自分の将来の職業のために今何が必要かという授業が印象に残っている。小学生の内からいろいろなことを考えられて本当にいいと思う。 ● 毎日の宿題にもタブレットを活用してほしい。 ● 読書については、家庭の協力と継続的な取組が必要だ。新聞の活用も良いと思う。	4.0	
			2 授業の中でICT機器の効果的な活用に取り組んでいる。						
			3 「家読（うちどく）」等の読書活動推進に向けて、環境づくりや指導を行っている。						
			4 将来への希望や夢をもてるような指導を行っている。						
	(2) 心の財	自己肯定感と豊かな人間性の育成	5 問題行動（いじめ）等について報告・連絡・相談を確実に行い、迅速に対応するよう努めている。	4.0	○ 年間を通して「QUテスト」(2回)「心のアンケート」(5回)「いじめアンケート」(3回)「教育相談」(6回)等を行い、児童生徒の状況把握と問題解決に努めている。また、毎週水曜日に情報共有の場を設け、職員全員で生徒指導にあたっている。 ○ 児童生徒は、学校のきまりをよく守り、規範意識が育っている。 ○ 学校では、「あたりまえのこと3か条（あいさつ、元気のよい返事、整理整頓）」の指導に努め、児童生徒自身も意識できているようである。ただ、地域の方々からは、学校外での日常的なあいさつができるでないとの意見も聞かれる。今後も、保護者や地域とともに取り組んでいかなければならない。 ● 本年度も、メディアコントロール週間(3回)を活用し、保護者とともにメディアの使用時間等を振り返る機会を設けた。今後も、学校保健委員会やPTA活動等を通じて意識を高め合い、家庭と連携しながらさらなる充実を図っていきたい。	3.9	○ 授業参観を行った際、児童生徒玄関の靴が同じ方向に整然と並んでおり、整理整頓の指導が行き届いていると感じた。 ○ 児童生徒の悪い評判は聞かない。 ● メディアコントロールの認知は広がってきたが、なかなかメディアを切るのが難しいと、親としても考える。 ● メディアの適切な使い方については、第一義責任者としての保護者の意識向上を期待したい。 ● 時代の流れもあり、メディアコントロールはなかなかできない気がする。	4.0	
			6 児童生徒が地域でも家庭でもあいさつや返事ができるように指導を行っている。						
			7 学校のきまりについて指導の徹底を図っている。						
			8 メディア（スマホ・タブレット・ゲーム等）の適切な使い方について、指導の充実を図っている。						
	(3) 身体の財	健康・安全意識と体力の向上	9 自分や周りの命の大切さについて考えさせる指導を行っている。	4.0	○ 命を大切にする教育の充実を目指し、「命を大切にする週間」や講師を招いての性教育、避難訓練等を行うとともに、日頃の道徳の授業や通信等で啓発を行った。その成果が見て取れる。 ○ SSカード（年間8回）を活用し、基本的な生活習慣の育成を図っている。推進項目の一つ「早寝・早起き・朝ごはん」については、生活習慣の根本となるので、今後もさらに家庭と連携して取り組む必要がある。 ● 体力向上を目指し、授業や朝の活動、外遊び等の充実を図っている。中学生については、部活動生以外は、授業以外でなかなか外で体を動かす機会がもてないので、今後工夫が必要である。	4.0	○ 命の授業をよく目にする。評価に値する。 ○ 9月の運動会は暑い時期の開催であったが、水分補給や休憩時間等の対策がしっかり取られていた。このようなことが、子供たちの健康安全意識の向上に繋がっていると思う。 ○ SSカードは、視覚に直接訴え理解しやすいカードでとても良いと思う。 ○ コロナから3年、運動不足がとても目立ったが、学校や外でも少しづつ普段の運動ができだした。	4.0	
			10 SSカード記入を定期的に行い、基本的な生活習慣の実態把握と改善に努めている。						
			11 体力向上プランに基づいた校内での取組や授業の充実に努めている。						
	教務・管理部	信頼される学校づくり	12 小中一貫性のメリットを生かした指導を行っている。	4.0	○ 児童生徒は、ステージ集会や児童生徒会活動を通して、各ステージ目標の達成を目指している。また、一貫校のよさを生かした乗り入れ授業（英語、音楽、体育）や縦割り活動（授業）、学校行事等の充実を図っており、保護者の理解を得ていることが分かる。 ○ 修学旅行や宿泊学習等の宿泊を伴う行事だけでなく、集会や児童生徒会活動の様子、普段の学習活動の様子について、適宜発信することができた。保護者や地域の方からの反響もあり、閲覧数を伸ばしている。 ○ 総合的な学習の時間を中心に、保護者や地域の方、県のコーディネーターや諸団体等、多様な人材を講師として招き学習を行っている。子供たちは、地域に根差した課題を見つけ解決する探究活動を通して、思考力、判断力、表現力を向上させている。その成果として、9年生は「さいと学アワード」で2年連続となる最優秀賞を受賞した。 ● 地域行事については、へそ祭りへの参画をはじめ、石野田祭りや夏祭りなどへの参加も見られる。家庭生活や部活動の事情もあって難しい面もあるが、何らかの形で児童生徒が関わることができるよう、地域づくり協議会や学校運営協議会とも協議していきたい。	3.9	○ 少人数の学校にとって小中一貫教育はとても良く、いろいろと工夫して取り組まれていると思う。 ○ 小学生は中学生の姿を見て育ち、中学生は自分たちの背中を見せ進む道に足跡をつけていると思う。 ○ 児童生徒が一緒に会話しながら下校している。 ○ へそ祭りのへ生徒の参加はとても良く、元気をもらつた。 ○ 地域の活動に少年団や部活などの合間に参加しても良い、地域に子供達の声が聞こえることがとても微笑ましく思える。 ○ ホームページの最近の充実はすばらしい。 ● 地域への参画方法には工夫が必要。例えば、児童生徒の書いた作文（授業参観や掲示で見聞きした作文はとても上手で驚いた）を地域づくりの新聞に掲載して地域の方々に読んでもらうというのも一つの参画になるのではないかと思う。	4.0	
			13 児童生徒が地域の行事や活動に積極的に参加したいと思うような指導を行っている。						
			14 通信やホームページ等を通して積極的に情報発信をしている。						
			15 地域の人材を活用した取組みを積極的に行っている。						